

各関係機関の長様

滋賀県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報(特殊報第1号)について

このことについて、以下のとおり発表したので送付します。

平成24年度病害虫発生予察特殊報第1号

平成24年(2012年)6月5日
滋賀県

1. 病害虫名 フタモンマダラメイガ *Euzophera batangensis* Caradja
(別名 クロフタモンマダラメイガ)

2. 作物名 ブルーベリー

3. 発生経過

- (1) 平成23年10月に野洲市においてポット栽培されているブルーベリーで、主幹の地際部が食害されて、多くの株が衰弱または枯死する被害が発生しているとの連絡を受けた。
- (2) 同年10月31日に現地調査を行ったところ、地際部での食害と虫糞の排出が確認され(図1)、被害箇所の樹皮下よりチョウ目昆虫の幼虫を採集した。一部を液浸標本とし、残りを室内で飼育したところ、平成24年4月4日に1個体の成虫が羽化した。
- (3) 平成24年4月25日に再び現地で幼虫と蛹の採集を行い、室内で飼育したところ、同年5月6日に2個体の羽化成虫を獲た。
- (4) これらの幼・成虫標本を元・京都府立大学教授 吉安 裕氏に送付し同定依頼をしたところ、フタモンマダラメイガと同定された。
- (5) 本種はカキ、クリ、リンゴの害虫として知られているが、1999年に三重県でナシでの被害が新たに確認され、以後2011年までにナシでの被害が9府県、モモでの被害が1県、スモモでの被害が2県で報告されている。
ブルーベリーでの被害はこれまでに報告されておらず、本県の事例が初確認である。

4. 形態および生態

老熟幼虫の体長は約13mmで、頭部は光沢ある茶褐色、胴部は淡褐色。白色の薄い楕円形の繭を作って蛹化するが、繭が薄いので透けて虫体が見える。蛹は光沢ある黄褐色で、羽化前には暗褐色となる。成虫は開張約15mm、暗褐色で前翅に灰褐色の波状の横帯が2本ある。

終齢幼虫で越冬し、越冬世代成虫は4月下旬～5月上旬に発生する。年3～4回発生するが、夏期には羽化時期が交錯して世代の区分が不明瞭となる。

5. 被害の特徴

幼虫が主幹の地際部や枝の分岐部で樹皮下に食入して形成層を食害する。被害部はやや黒変し、糸で綴られた虫糞の排出が見られる。食害されたブルーベリーはポット栽培であり、主幹は直径3～4cmと細いため、被害が進むとすぐに環状剥皮の状態となり、樹勢は低下して、やがて枯死する。

なお、被害の発生したほ場ではラビットアイ系の品種での被害が目立ち、同品種を調査したところ276株中の103株(37.3%)で食害痕が認められた。

6. 防除対策

- (1) ブルーベリーにおいて、フタモンマダラメイガに適用のある農薬はない(平成24年6月1日現在)。
- (2) 虫糞が排出されている部位の粗皮を削り、樹皮下に生息している幼虫および蛹を捕殺する。

7. 写真



図1 地際部の食害(虫糞の排出が確認できる)



図2 枝の分岐部の食害



図3 幼虫



図4 成虫

滋賀県病虫害防除所

<http://www.pref.shiga.jp/g/byogaichu/>

滋賀県近江八幡市安土町大中 516

TEL: 0748-46-4926・6160

FAX: 0748-46-5559

Email: GC70@pref.shiga.lg.jp